

- 日 2019.12.23 (日)
- 時間 17:30-19:00
- 会場 大阪大学中之島センター501
- 参加者 榊形 金澤 森本 中川 糸賀 城野 菱田(運営メンバー)
大学院生 p4c 実践を希望される保護者 UMEDAI・ハルカス大学 事務局
- 記録 辻村

キーワード

UMEDAI ハルカス大学 哲学カフェ 主体的で深い学び

0. 自己紹介(初参加)

- ・UMEDAI・ハルカス大学事務局

URとの協賛でできた「うめきた UMEDAI ガーデン」で学生とイングリッシュガーデンを、あべのハルカスでは「ハルカス大学」を運営している。企業と学生が互いに「出会い、交わり」相互理解を深める「出会い」の場の提供を目的とする事業。p4cによるコミュニケーションの援用可能性や「ハルカス大学」での子ども向けのプログラムなどを考えている。大阪教育大 榊形ゼミ出身、森本さんの先輩。

1. ディスカッション(フリー・ディスカッション)

- ・p4cの授業に対する管理職の評価として「ただおしゃべりをしているだけではないか/発言も単なる思いつきではないか」というものがあつたが、「思いつきでは話せない」。
- ・管理職の「変な意見がでるとどうするのか?」というネガティブな捉え方。
- ・主体的で深い学びの実践としてのカフェ的な授業。3分話して1分ノートをとるような。
- ・石橋駅から徒歩10分のところにある176号線沿いの店舗の2階に拠点を移して活動します。一層のご協力をお願いします。(菱田)
- ・「ぼくのおべんとう」(『あたらしい どうとく 3』東京書籍)¹でp4cをする。「引っ越しはどんなときにするか?」と児童にふると「離婚したとき」という発言があつた。それに賛同する児童が複数あり、担任としては内心はらはらしたが同時に「セーフティー」(児童主体の)が成立していることを実感した。/何でそのような問いが発現するのか?/移動するとはどういうことか?という哲学的な問いが生まれる可能性も胚胎している。
- ・コミュニティボールの糸→比喻ではないか?
糸→人と人の繋がり→ボールをやり取りすることで生まれる「動的なコミュニケーション」(中川)
↓
- ・「感じるものを伝えたい」というのが「探究の共同体」(榊形)
- ・「語り続ける」ということ。/未だ経験を言葉にできない。(菱田)

以上

¹ 東京書籍の指導事例 https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/dlf74/edaz4401.pdf

因みに内容項目: 愛国心 ねらい: 我が国の文化や伝統のよさに気づき、国を愛し大切にしようとする心情を育てる。